

令和 6 年度 (2024 年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
日本音楽研究専攻 専門科目 筆記試験 A 日本語現代文

下に記す文章は、歴史学者、林屋辰三郎氏が、日本の中世における芸術思想の特徴を概説している文章です (一部省略し、表記などに改変を加えてあります)。よく読んで後の問い (1 から 4) に答えてください。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみ記載しています。

林屋辰三郎「古代中世の芸術思想」『古代中世芸術論（日本思想大系 23）』
（岩波書店、1973年）より

注1 （現代語訳）西行の和歌においても、宗祇の連歌においても、雪舟の絵においても、利休の茶においても、通底するものはひとつである。

注2 （現代語訳）しかし、俳諧という風雅な営みは、造化すなわち自然の景物に寄り添って、折々の四季を友となすのである。目に見えるものは、すべて花となる。心に思う感情は、すべて月になる。目に見えるものが花と感じられないのであれば、それは野蛮人に等しい。心の中に花が思い浮かばないようであれば、鳥獣と同じである。野蛮人や鳥獣になることなく、造化すなわち自然の景物に従い（つまり、寄り添い）、それに帰る（つまり一体化する）のである。

注3 （現代語訳）私たちは、言葉を口にすることを好まないで、ひとことも話しませんと申し上げました。利休からずっとそうであって、丁寧に教えることなどありません。

- 1、①から④の各段落が伝えようとする中心的な内容を、本文の言葉を使いつつ、それぞれ一文で書き表して下さい。さらに各段落の内容にふさわしい簡単な見出しを、それぞれに対して付与して下さい。

【①の段落】

【②の段落】

【③の段落】

【④の段落】

2、傍線部「一つの到達点」は、どのようなことを指していますか。

3、著者は「牽引力」という言葉を繰り返し用いています。「牽引力」は、ここではどのような作用を意味していますか。

4、本文（注をふくめて）の内容にそった質問をいくつか考えて下さい。それらの質問を、著者に向けた丁寧な言葉で、書いて下さい。

令和 6 年度（2024 年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
日本音楽研究専攻 専門科目
筆記試験 B（小論文）

問

「楽譜 と 演奏の実際」について
自由に論じなさい。